

## 長編ドキュメンタリー映画『歌舞伎役者十三代目片岡仁左衛門』

この作品は、当時歌舞伎界の最長老であった十三代目片岡仁左衛門の84歳から90歳で亡くなるまでの記録である。製作に約7年の歳月を費やし、舞台や楽屋、稽古場、氏の貴重な芸談から私生活に至るまで、その芸の深さと人間としての魅力を余すところなく捉えている。撮影をはじめたころ仁左衛門は視力をほとんど失っていたが、舞台ではそのことを感じさせない芸だった。この作品を通して、日本の伝統芸能である歌舞伎を支えてきたものがなにか、その一端を知ることができる。

製作：1992-1994年（全6巻） 製作：自由工房 企画：仁左衛門丈の芸談をきく会

製作 工藤充／監督 羽田澄子／撮影 西尾清、瀬川順一、宗田喜久松 他／録音 滝澤修、栗林豊彦

協力 松竹株式会社、国立劇場、株式会社明治座、株式会社御園座

### 第一巻 若鮎の巻 （102分）

第一巻は、上方歌舞伎若手役者の勉強会「若鮎の会」が8回目の自主公演（1987年）を行うにあたり、十三代目片岡仁左衛門が監修と演技指導をした時の記録。

出し物は『鬼一法眼三略巻』の「一条大蔵譚」と『傾城反魂香』の「吃又」。映画は、稽古風景から本舞台の上演までを映す。稽古風景では、発音や所作の、実に細部に至るまで指導する仁左衛門の様子が映し出され、稽古の熱がそのまま伝わってくる。

---

製作：1992年 企画：仁左衛門の芸談をきく会 製作：自由工房

製作：工藤充 監督：羽田澄子 撮影：西尾清 録音：栗林豊彦、滝澤修

出演：片岡仁左衛門、片岡我當、嵐徳也、嵐雛三、尾上笹太郎

### 第二巻 人と芸の巻 上巻 （94分）

「人と芸の巻（上・中・下）」は、仁左衛門84歳から88歳までの4年間、折々の芸談、舞台、生活を記録したもの。

第二巻である上巻には、1987年に出演した『伊賀越道中双六』の「沼津」（大阪 中座）、『紙子仕立両面鑑』の「大文字屋」（東京 国立劇場）、『寿曾我対面』（京都 南座）の舞台稽古や本公演の様子が映されている。『寿曾我対面』は、京都南座の顔見世35回連続出演となる記念すべき公演で、表彰・取材を受ける仁左衛門の様子も映されている。

その他にも、京都嵯峨の自宅で毎朝神仏に祈る仁左衛門の姿、「芸談をきく会」(\*)の集まりで工藤祐経役についての語る姿なども。（※仁左衛門丈を囲み芸談を聞くご最良の集まり）

---

製作：1992年 企画：仁左衛門丈の芸談をきく会 製作：自由工房

製作：工藤充 監督：羽田澄子 撮影：西尾清、瀬川順一、内藤雅之、柳田義和 録音：滝澤修

出演：片岡仁左衛門、片岡秀太郎、片岡孝夫、片岡我當、實川延若、中村福助、中村扇雀、中村富十郎、中村雀右衛門、伊藤友久

### 第三巻 人と芸の巻 中巻 (101分)

1988年の記録。舞台は、『菅原伝授手習鑑』の「学問所」「道明寺」(東京 歌舞伎座)、『妹背山 婦女庭訓』の「花渡し」(歌舞伎座)の様子が映される。

その他、「芸談を聞く会」、大宮ソニックホールの舞台びらきで上演される『寿式三番叟』の翁の稽古風景、長野県松本で開かれたご鼠貞の集まり、23歳の時にまとめた短編小説の話、列車好きなこと、祇園のお茶屋で仁左衛門自ら三味線を爪引く様子、片岡家のお盆などが取められている。

---

製作：1992年 企画：仁左衛門丈の芸談をきく会 製作：自由工房

製作：工藤充 監督：羽田澄子 撮影：西尾清、瀬川順一、内藤雅之、柳田義和 録音：滝澤修

出演：片岡仁左衛門、中村福助、片岡秀太郎、尾上梅幸、市村羽左衛門、秋山加代、中村吉右衛門、中村芝翫、玉木里春

### 第四巻 人と芸の巻 下巻 (105分)

1988年から1991年の「芸談を聞く会」で様々な芸談を語る様子が収録される。『東海道四谷怪談』の怖さについて、10歳の頃に父から『近頃河原達引』の猿廻し与次郎を教えられた時のこと、『廓文章』の伊左衛門についてなど。また、1962年に、当時不振を極めていた関西での歌舞伎公演の復興を目指して私財を投じて行った「仁左衛門歌舞伎」の初日のことも語る。

本巻では、仁左衛門に近い人たちにもカメラを向ける。喜代子夫人、長男・片岡我當、次男・片岡秀太郎・三男・片岡孝夫、五女・片岡静香、番頭・伊藤友久のインタビューでは、役者として、人間としての仁左衛門が語られる。

また、『堀川波の鼓』(1988年、京都 南座)、『鬼一法眼三略巻』の「菊畑」(1989年、南座)、『寿曾我対面』(1990年、南座)で舞台に立つ姿も収録。

---

製作：1992年 企画：仁左衛門丈の芸談をきく会 製作：自由工房

製作：工藤充 監督：羽田澄子 撮影：西尾清、瀬川順一、内藤雅之、柳田義和 録音：滝澤修

出演：片岡仁左衛門、片岡我當、片岡秀太郎、片岡孝夫、片岡静香、片岡喜代子、伊藤友久、尾上梅幸、中村松江、中村富十郎、片岡我童

## 第五卷 孫右衛門の巻 (86分)

『恋飛脚大和往来』の「封印切」と「新口村」(1989年、東京 歌舞伎座)の稽古と舞台の記録。舞台稽古では、視力の弱くなった仁左衛門のために、目印の赤いランプが花道の端につけられたが、仁左衛門にはもうそれも見えていなかった。孫右衛門を仁左衛門、忠兵衛を孝夫、梅川を中村雀右衛門が演ずる。

映画の冒頭には、仁左衛門の写真集『風姿』が出版された際に行われたインタビューも収められている(1988年4月6日 出演：片岡仁左衛門、片岡我當、片岡秀太郎、片岡孝夫 聞き手：水落潔)。

---

製作：1992年 企画：仁左衛門丈の芸談をきく会 製作：自由工房

製作：工藤充 監督：羽田澄子 撮影：西尾清、宗田喜久松 録音：滝澤修

出演：片岡仁左衛門、片岡孝夫、中村雀右衛門、片岡我童、市村吉五郎、片岡我當、片岡秀太郎

## 第六卷 登仙の巻 (158分)

最終巻は、仁左衛門88歳から90歳までの最晩年を捉える。

舞台は、『楼門五三桐』の「山門」(1991年、京都 南座)、『江戸絵両国八景』の「荒川の佐吉」(1992年、南座)、『元禄忠臣蔵』の「御浜御殿綱豊卿」(1992年、名古屋 御園座)、『菅原伝授手習鑑』の「車引」(1992年、南座)、『寿式三番叟』(1993年、東京 明治座柿落とし)、『寿曾我対面』(1993年、明治座)、『鬼一法眼三略巻』の「奥庭」(1993年、南座)、そして最後の舞台となる『八陣守護城』の「湖水御座船」(1993年、南座)を映す。南座に初めてできたおおぜりで、石川五右衛門を演じる姿、明治座新装開場披露の「口上」での晴々しい姿、諸先輩から受け継いだ芸を残していく情熱など、最後まで芸に生きる様が映し出される。

「芸談の会」では、「御浜御殿綱豊卿」について、70年前に帝劇で見た「奥庭」に出演する松本幸四郎のことなどを語る。結婚62年目のお祝いの様子や、仁左衛門を支え続けた喜代子夫人、次女・蓉有子、五女・静香のインタビューも。

---

製作：1994年 企画：仁左衛門丈の芸談をきく会 製作：自由工房

製作：工藤充 監督：羽田澄子 撮影：西尾清、宗田喜久松、佐藤和人 録音：滝澤修

出演：片岡仁左衛門、片岡我當、片岡秀太郎、片岡孝夫、中村鴈治郎、尾上梅幸、中村富十郎、市村羽左衛門、中村梅玉、片岡蓉有子、片岡静香、片岡喜代子

以上

(映画配給 株式会社彼方舎作成)